

新任薬剤師研修会を終えて

西新潟中央病院 蓮田 越大

出身大学：岩手医科大学（2022年）

4月より西新潟中央病院に配属となりました蓮田越大と申します。入職後は、セントラル業務や抗がん剤の調製、NST専門療法士実地修練研修への参加、病棟業務および持参薬鑑別などをさせていただいております。日々の業務でも知識不足を感じる機会が多々ありますが、8月から始まった病棟業務では、患者さんからの質問に答えられないことが多く、知識不足を日々感じております。患者さんや他職種の方からも頼っていただけるような薬剤師となるために、日々精進していきたいと思います。

7月9日に行われました第25回新任薬剤師研修会では、国立がん研究センター東病院の米村 雅人先生による「医療安全とは」のご講演と、相模原病院の佐藤 ソメヨ先生による「Team STEPPS」のグループ研修がありました。

医療安全の講義では、過去に起こった筋弛緩薬マスキュレート剤の誤投与死亡事故が起こった背景などについてお話していただきました。背景の中で特に印象に残っていることは、休日の日勤帯は、薬剤師が2人体制であり、定時配送時間までに調剤業務を遂行するためには相互監査を行うことが困難であり、自己監査を行っていたということです。当院の休日当番は薬剤師一人勤務であるため、一人で調剤し、自己監査を行っております。過去に起こった事故と似たような状況が当院でも起こりうるため、今回の研修を踏まえ、改めて注意しながら調剤業務を行う必要があると感じました。調剤に関連するインシデントレポートを書く機会は多々ありましたが、今日まで先輩方が書いたインシデントレポートを読む機会がありませんでした。今回の研修を通して、過去のインシデントレポートを読み返し、様々な実例を把握することで、似たような状況での注意喚起やインシ

デントを起こさないための対策を立てることができると考えました。入職後から半年が経過すると、少し慣れが出てきてインシデントが増えると先輩方からお話を伺ったことがあります。改めて気を引き締めるためにも、過去のインシデントレポート読み、インシデントを減らせるように工夫していきたいと思います。

Team STEPPSでは、2回チャレンジルール（安全を脅かすような状況や事柄などがあると感じた際に、活動を中断させるためにアピールを繰り返すこと）、CUS（自分が感じている違和感や不安を素直に声に出すこと）、SBAR（状況・背景・評価・提案と依頼の頭文字をとったもので、相手に分かりやすく情報を伝えることが出来る）といったコミュニケーションスキルを教えてくださいました。コミュニケーションスキルを用いなかった時と用いた時の病棟でのシミュレーション動画を視聴し、その後グループで討論を行いました。シミュレーション動画では他職種のスタッフに、コミュニケーションスキルを用いて患者の様子がいつもと異なると正確に伝えていました。今後病院で勤務していく中で、医師や看護師などの他職種の方に自分の意見や考えを伝える機会が多くあると思います。その際は、正確に自分の考えを伝えるためにも今回教えていただいたコミュニケーションスキルを用いていくと良いのではないかと感じました。

今回の研修は医療安全やコミュニケーションスキルに関して学ぶことができとても充実しました。コロナ禍にも関わらず、新任薬剤師研修会を企画・運営してくださった先生方、ご研修いただいた米村 雅人先生、佐藤 ソメヨ先生、研修に参加させてくださった西新潟中央病院の先生方には厚く御礼申し上げます。